

平成18年3月10日

各位

会社名 株式会社東京精密
代表者名 代表取締役社長C.E.O.兼C.O.O.
鈴木 貞勝
(コード番号 7729 東証第一部)
問合せ先 代表取締役業務会社執行役員社長
太田 邦正
TEL 0422 - 48 - 1011

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年11月11日の決算発表時に公表した業績予想を下記の通り修正します。

記

〔連結業績予想の修正〕

18年3月期通期 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年11月11日発表)	89,000	14,000	7,700
今回修正予想(B)	92,000	14,000	3,000
増減額(B - A)	3,000	-	4,700
増減率(%)	3.4	-	61.0
前期(平成17年3月通期)実績	84,750	12,885	4,459

〔単独業績予想の修正〕

18年3月期通期 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年11月11日発表)	79,000	10,500	6,500
今回修正予想(B)	82,000	10,500	2,700
増減額(B - A)	3,000	-	3,800
増減率(%)	3.8	-	58.5
前期(平成17年3月通期)実績	73,336	9,676	605

〔修正の理由〕

(1) 連結売上高

- ・ 半導体製造装置部門および計測機器部門とも、ユーザーである半導体メーカーや自動車業界などの設備投資需要が強く、受注高・売上高とも好調に推移しています。半導体事業および計測事業のいずれもが期初の売上高予想を上回る見込みです。

(2) 連結経常利益

- ・ 売上増により利益が増加いたしますが、一方で半導体一部製品について、予定外の旧機種改良費用が発生したことや開発費の計画比増などにより、経常利益は予想通りとなる見通しです。

(3) 連結当期利益

- ・ 当社は、従来より資産回転率の向上など財務構成の改善を課題として取り組んでおります。その一環として、今期さらに財務体質の改善を図り、今後の収益基盤を強化していく観点より特別損失を約63億円計上する予定です。
主要内訳は、半導体製品の旧機種についての棚卸資産廃棄損および評価損約28億円と、リープル関連設備の固定資産除却損およびリース解約費用約32億円などです。
- ・ 以上より、当期利益は期初予想を下回り、30億円を予想しています。

(4) その他

- ・ 配当につきましては、長期的視点で保有していただいている株主の皆様の視点と当社の財務状況を踏まえ、一株あたり期末配当金20円(中間配当金と合わせ通期では一株あたり年40円)を予定し、変更はありません。
- ・ 当社課題である財務構成の大幅な改善を目指して、今期に半導体旧機種やリープル関連資産を前倒し処理することにいたしました。これにより、財務処理は終了となり、来期の売上高1,000億円突破と利益の向上に寄与するものと予想しております。

以上

将来の事象に係わる記述に関する注意

この発表文には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。